

報 告 書

開催日時	平成26年5月13日（火）午後7時～8時35分	
開催場所	竹駒定住促進センター	
出席議員	挨拶 菅原悟班長（総務常任委員会委員長）	
	司会進行	菅野 稔
	報告者	佐竹 強
	記録者	藤倉泰治
	議員	千田勝治（欠席：小松眞）
参加人数	22人	
主な要望 ・提言等	<p>○予算の説明があったが、何の資料もなくよくわからない。関連の資料を用意すべきではないか。</p> <p>○1300億円という予算の話聞いてもピンとこない。</p> <p>○予算の話よりも、今泉に関したこと情報がほしい。</p> <p>○市の意向調査をやるようだが、高台移転の人は何人になったのか。決まったのか。</p> <p>○農地を市に買い取ってもらえるようになったが、私は農地を残しておきたい。先祖の土地なので買い上げは困る。市では何もかも買い取って何にしようというのか。大通り地区は運動公園らしいので買取はわかるが、今度は今泉地区でも買取というのはどういうことなのか。</p> <p>○区画整理の場合と高台移転の平等性がおかしい。例えば震災前51坪あったのに区画整理で減歩されれば31坪になる。これでは家を建てられない。だまされたようだ。</p> <p>○高台に行く場合の坪単価がいくらになるのか不安。早く市の考えを示してもらわないと、今後どうするか判断ができない。市では意向調査をもとに方針を決めるようだが、市の考えがわからないまま高台移転かかさ上げにするか決めかねる。</p> <p>○防災集団移転の場合は坪単価が出ているようだが、区画整理の高台移転はまだだ。それに、区画整理と防集と道路を境にしてまったく条件がちがってくる。不平等だ。防集では100坪が確保されるが、区画整理の場合は減歩される。土地を増やすにも買わなければならない。防集は100坪は確保されるので不平等ではないか。</p> <p>○高台に新たな同じ集落になっても、防集の人と区画整理の人とでは違いが生じてくる。</p>	

- 今泉地区は減歩率 57%、激減になる。
- 我々は、減歩率がいくらになるか分からないから、高台に行くかどうか判断に困る。早く市の考えを出してほしい。市とすれば7月に意向調査を行って市の考えを決めるようだが……。
- かさ上げがどの位になるのか、だれでもわかるようにかしてほしい。
- 今泉地区に2か所看板が出たらしいが、見えにくいのではないかな。
- 従前土地の面積も勘案して面積を決めてほしい。70坪の人が100坪を希望してもそうなるのか。防集の人は100坪になると思う。区画整理の人も平等にしてほしい。
- 国の制度も途中から変わったが、同じところに行きたい。平等になるように。
- 消防団の行動マニュアルは決まったのか。10分前に退避することになったようだが、大船渡は20分前だ。陸前高田の場合は10分前まで団員を拘束するのか。このことで議会では議論したのか。
- まら、マニュアルつくっても、そのマニュアルによる対応だけでは現実には問題が出てくると思う。マニュアルは議会で決めるのか。
- 震災遺構を残せということよりも、教育の中で津波や防災のことをもっとやるべきではないか。津波のこともわからないで消防や警察の仕事はないのだ。悔しい。
- 津波の検証について、市役所に言ったならば、「犯人づくりはしない」と言われた。そういうことでは震災の検証はできないと思う。浸水10メートルのところに避難場所。避難場所の検証をしていない。今回の場合も、市では県のシミュレーションをもとに市のシミュレーションをつくっていると思う。市に「ほんとに大丈夫なのか」と聞いたら返事が返ってこなかった。
- みな「想定外」でごまかしている。警報も県境で分けられて警報が出てくる。「6メートル」の警報が出ていたら生きられた。検証がうやむやだ。「検証結果（報告書）」は見ない方がいいようだ。全部かいてあるわけではない。
- 過去にこうだというだけではなく、今後どうするかまではっきりさせることが検証ではないのか。
- 検証のための検証にならないように。市の検証はパフォーマンスだ。
- かさ上げか高台か、私は決めていないが、意向調査はほんとうに最終確認ということなのか。
- 市では一人ひとりの意向が決まらないと方針は出せない。しかし、個人個人は市の考えが出てこない決められない。たちごっこのようだ。

	<p>○ガレキ処理も幹線道路だけでよかったのではないかと。一般町民に住宅用地を与えることが復興だと思ったが、もう終わってしまった。宅地造成を急ぐべきだった。生活の基盤もつくらないで復興はない。もう遅いが、高台もかさ上げもこれからだ。今泉地区は、57%が減歩なら高台に行かない。かさ上げの場所でという声も耳にしている。</p> <p>○かさ上げの安全性はどうか。地盤は大丈夫なのか。かさ上げした場所は24センチも沈下していると聞く。かさ上げは陸前高田だけではないと思うので、他の市町村のかさ上げ地と情報交換できるように市に要請してほしい。</p> <p>○地盤沈下して家が傾いたら、その責任はどうか。施工業者の責任とかいろいろあるが、あくまで陸前高田市（の責任）ははずしてはならないと思う。今後大きな問題になる。</p> <p>○建設課では、地盤改良すると言ったが、住宅を建てるところにこそ地盤改良すべきだ。</p> <p>○ほかの市町村のかさ上げの情報も出してもらって議論できるようにしてほしい。</p> <p>○復興計画の会議を傍聴したが、最初は3メートル、5メートルの予定で、7メートル8mにはしない」と言っていた。それがもう今は8メートル、10メートルのかさ上げになっている。</p> <p>○これから住宅建設が一斉にはじまり建築ラッシュになる。新潟県の小千谷の場合は市で1000万円のモデルハウスなどを建てていた。市ではモデルハウスの考えはないのか。そういう住宅建築の場合の相談する部署はないのか。</p> <p>○山のことで。気仙町には何百町歩の山がある。昔共同で植えた山もある。こんな時に伐って、個人の人を助けるように、みんなの役に立てるようなことはできないのか。収入の割合も市の3割も考えるべきではないか。</p> <p>○学校を建てる場合も、木造校舎を考えるべきと思う。</p> <p>○高台2、3、4の場所は、土地買収が終わったのか。</p>
<p>所 感</p>	<p>【菅原悟】 今回の説明資料について、詳細な数字等が記載されたものにしてほしいとの要望がされた。また、今泉地区では区画整理事業と防集事業との移転関する意見等が多く、当局や議会からより丁寧な説明が必要であると感じた。</p> <p>【菅野 稔】 昨年の1月30日に行われた懇談会では参加者25名でしたが、今回は18名と少なかったが女性の方が多く様々な意見・提言を受けました。</p>

特に土地区画整理事業と防災集団移転事業との格差があるとのことで格差のない事業にして欲しいとの声が多かった。

7月には意向調査があるとのことですが既に前回の調査で終わったものと思っている市民もいるようなのでもう少し丁寧な説明をする必要があるように思われました。

【佐竹 強】

参加者のほとんどが仮設住宅にて生活を余儀なくされている方々である。防災集団移転や土地区画整理事業の推移にかなり注目しており、現在の生活についての不安、住宅用地確保や移転についての不安をおしなべて発言していたことが注目される。

今後の町づくりについては何よりも住民が不公平感を持つことが無いよう迅速、公平に事業の遂行が求められるべきと思った。

【千田勝治】

今泉地区の被災された方々の、土地区画整備事業と防災集団移転事業の高台移転に伴う制度の格差に対する不満と、復興事業の遅れに伴う気持ちの変化の切々な思いを強く感じさせられた。

【藤倉泰治】

女性の参加が多く、これからの住まいへの不安や要望が切々と出され、議会として行政として情報提供も含めて、住民個々への責任ある対応、丁寧な対応の必要性を感じた。

防災における教育の重要性が語られたが、津波のことを地域でも議会でも、明示や昭和の大津波など地元で実際に遭った津波のことを知ることの重要性を再認識させられた。

今泉地区では区画整理と防集エリアがあって、道路を隔てて、大きな不平等があることが問題となった。制度を現地に合うように変えるため国に対しての働きかけが課題と思った。

議会広聴広報特別委員会

広聴小委員長 松田 信之 殿

平成26年6月6日

陸前高田市議会議会報告会開催要綱第10条第1項の規定により提出します。

平成26年度議会報告会 1班

班長 菅原 悟 ㊞